

ユニバーサルデザインの2つの原則

【その1】 ユニバーサルデザインの7原則

【原則1】 だれでも公平に利用できること(公平性)

広くて段差のない歩道は、みんなが快適に通れます。また、床が低くてスロープを備えたバスなどは、だれもが利用しやすくて便利です。

【原則2】 いろいろな方法を自由に選べること(自由度)

エレベーターに高さの違うボタンがあると、背の高さに関係なく使えます。また、エレベーターやエスカレーター、階段が近くになれば、好きな方法を選んで上り下りできます。

【原則3】 使い方が簡単ですぐわかること(単純性)

レバー式の蛇口などは見ただけで使い方が分かりますし、簡単に水の量や温度の調節ができます。

【原則4】 必要な情報がすぐ理解できること(わかりやすさ)

大きな絵で表示された案内板は、何を表しているか直感的に分かります。

【原則5】 うっかりミスが危険につながらないデザインであること(安全性)

倒れたら自動的に電気が切れる電気ストーブや、扉を開けると停止する洗濯機などは、安全に安心して利用できます。

【原則6】 無理な姿勢をとることなく、少ない力でも楽に利用できること(省体力)

取出口が中央の高さにある自動販売機などは、体に負担をかけずに楽に利用できます。

【原則7】 使いやすい寸法・空間になっていること(スペースの確保)

通路幅の広い改札機であれば、多くの荷物を持った方や、体格の大きな方、ベビーカーを押している方でも無理なく通ることができます。

【その2】 アクセシビリティとインクルージョンの基本原則

3) 本ガイドラインの背景となるアクセシビリティとインクルージョンの基本原則

本ガイドラインの背景にある基本原則は、IPC ガイドが基本原則として掲げる「公平」、「尊厳」、「機能性」の3つである。

「公平」

すべての人々が、個人の身体的・機能的な状態に関係なく、同じ水準のサービスを受けられることを保障する。

適切な博覧会会場の設計、運営に関わる諸計画の整備、トレーニングを受けたスタッフ・ボランティア等により、来場者はすべて同じ水準の体験を共有し、同等のレベルでプライバシーが守られ、安全が確保される。

「尊厳」

博覧会の施設やサービスを利用するすべての人々を尊重し、その個人の尊厳を損なわない方法で、博覧会を運営する。

会場の設計と博覧会運営に関わる諸計画においては、来場者が自分のペースと自分に合った多様な方法を選択できるように準備する。

「機能性」

博覧会時の会場内の施設やサービスは、障がいのある人を含めたすべてのステークホルダーのニーズを満たすことを保障する。

出典：施設整備に関するユニバーサルデザインガイドライン【改定版】(日本国際博覧会協会)